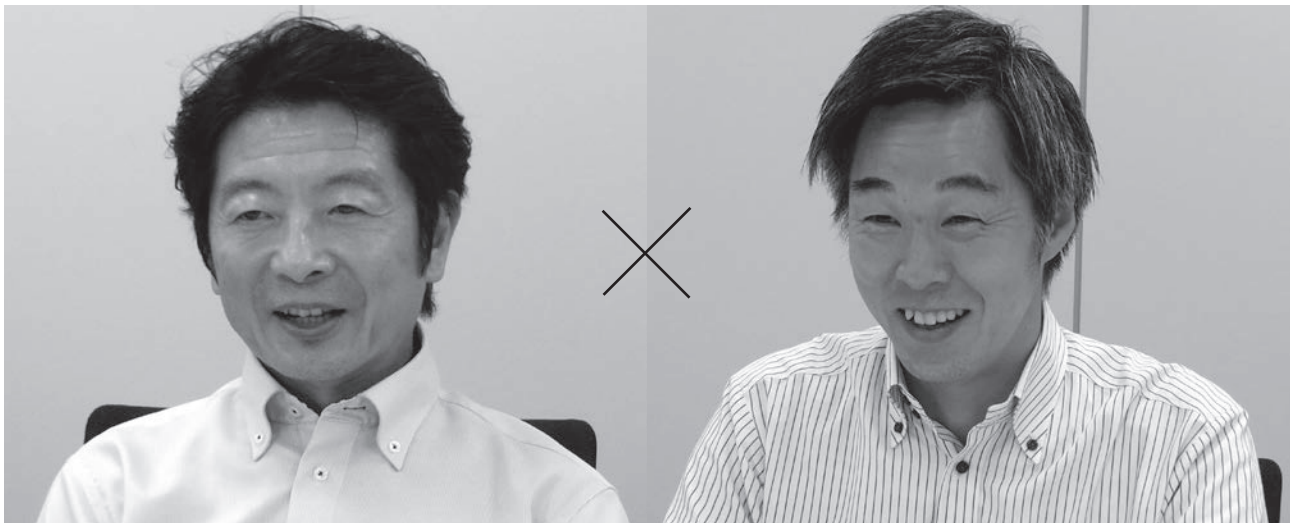
対談

へき地医療に挑む若者へ

―自分で考え,自分で捜し,そして自分で道を切り拓け.



國井 修先生
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
(GHIT Fund) CEO

佐藤新平先生
大分市医師会立アルメイダ病院婦人科 部長

アフリカへ行きたい！

佐藤新平　現在，へき地で勤務されている若い医師の中には，将来，海外で働いてみたいと思っている方もいらっしゃると思います．また，将来のことをまだ具体的に描けずに，へき地医療の中でもがき苦しんでいる医師たちも多いと思います．

先生はそういった部分をクリアして，今，国際的に活躍されていると思いますので，先生の姿がまさに解答になるのではないかと思い，今日はお話を伺いたいと考えました．

まず，先生のご経歴から教えていただけますか．

國井 修　医者になりたいと思ったのは実はかなり早い時期からです．母が大田原赤十字病院の救急外来の婦長，父が臨床検査技師でしたので，小さい頃から医療の話を聞きながら，医者になりたいと思っていました．私の祖母ががんの末期で入院していた時，当時は病室に寝泊まりできたので，祖母の看病をしながらその痛み，苦しみに触れて，医者になりたい気持ちはさらに強くなりました．さらに高校生の時，シュバイツァーの本を読み，地理の時間に当時，暗黒大陸と呼ばれていたアフリカ大陸の地図を見ながら，自分もあの大陸に身を捧げたいという強い想いが湧き起こったのを覚えています．若者の思い込みのようなものですが，自分の場合，

幸か不幸か，そのパッションがずっと続きました.

佐藤　そこから自治医科大学というところにはどうつながったのですか？

國井　国立は東京大学も狙って結構勉強していたのですが，授業料免除で，毎月お小遣いも貰えて，自分の行きたいアフリカのへき地にも行ける自治医大はとても魅力的でした．自治医大の面接の時に「この大学はへき地に行くのが義務ですが，行けますか？」と質問されて,「アフリカのへき地に行きたいので，この大学を受けました」と答えました．合格して将来アフリカに行けると喜んでいたら……無知でしたね．出身高校のある都道府県，私の場合は栃木県のへき地しか行けないと分かり愕然としました.

それでも日本のへき地医療にも関心を持ち始めて，大学１年生の時から秋田県象潟(きさかた)町や岩手県沢内村など，へき地医療の旗手とも呼べる医師のところに学びに行きました．アフリカでなくとも日本国内にもいろいろ課題があって,「へき地医療にはロマンがある」と感じました．また，すぐにアフリカで働けないのなら，学生のうちに世界のへき地，医療現場を含めていろんなものを見て回ろうと思い，大学の２年生からアジアやアフリカ，中南米など，最終的に学生時代に計30ヵ国くらいは回りました.

佐藤　それが先生の基盤になっている部分だと思います.

國井　そうですね．でも，音楽やスポーツも好きだったので，ルート４ジャズオーケストラや軟式テニスなどもやっていて，学生時代はあまり勉強するヒマがなかった(笑).

佐藤　海外支援に行くために，アルバイトもされていたのですよね.

國井　週に何日もアルバイトをしながらお金を貯めていましたね．遊学か留学もしたいと思っていたので．結局，１年間休学してインドとアフリカに行きました.

佐藤　インドでは伝統医学を学ばれたのですよね？

國井　本当はアフリカに行きたかったんです．当時アフリカは紛争や飢餓で難民も多かった．劣悪な水や衛生，栄養不足など，とにかく「死を招く要因」がたくさんあって，医療だけで解決できる状態ではなかった．そんなアフリカを学生時代にもっと知りたい，現地で学びたい，できれば農業や植林などボランティアでもいいから関わって，食料や干ばつ対策などへの取り組みにも関わりたいと思っていました．その思いを伝えて１年間休学したいと英語の鈴木伝次教授に話したら,「國井君，気持ちは分かるけどそれじゃ教授会は通らないよ．大義名分がなければ駄目」と言われました.

そんな時，岡山大学のアジア医学生会議を創設した先生方に誘われて，インドカルナータカ州に伝統医学の視察に行きました．そこで伝統医学専門のウドゥピー・アーユルベーダ大学の学長にお会いして,「留学したいので自治医大の学長に受け入れ承諾の手紙を書いてくれないか」と突拍子もないお願いをしました．すると，片田舎の小さな伝統医学の大学に日本の医学生が来てくれるなら大歓迎と，奨学金付きで私のために特別の１年コースを作ってあげる，さらに，大学の講師の家にホームステイさせてあげるということになりました．なんでもダメ元で言ってみるものです．伝統医学だけではなくインドの地域医療を勉強するという理由も付け加えて教授会にかけてもらい，最終的に承認をもらうことができました．折角１年間の休みをもらったのでアフリカにも行きたいと欲が出て，インド留学は10ヵ月程度にして，あとの２，３ヵ月はボランティアとしてアフリカのソマリア難民支援に行きました．全く，勝手な学生ですよね(笑).

ところが，インドで伝統医学の勉強をしてみるととても興味深かったのです．ホームステイ先は生粋のヒンドゥー教徒で，毎朝４時ごろに起きて，井戸水を汲んで体を清め，ヨガ，瞑想，